

ものの値段を調べる

参考図書 (reference book) とは

特定の知識や情報について調べることができるものを参考図書とよんでいます。小説などとは違い、必要なところだけ読めば用が足りる、たとえば、事典・辞典・図鑑・年鑑・便覧・白書などです。



『値段の明治・大正・昭和風俗史』

週刊朝日編 朝日新聞社

昭和54年(1979)から58年(1983)にかけて『週刊朝日』に長期連載された人気企画を単行本にまとめたもので、ものの値段の推移が表になっています。この本には、「正」(1981)、「続」(1981)、「続続」(1982)、「完結」(1984)、「新」(1990)があります。

各項目にはさまざまな分野で活躍する人たちのエッセイが数ページ添えられています。たとえば、「ランドセル」(続続)では野坂昭如の神戸一中での思い出が書かれています。

「白米」(正)、「食パン」(正)、「コーヒー」(正)などの飲食物、「葬儀料」(続続)、「郵便料金」(正)などの日常生活に関わる値段なども掲載されており、中には、「氷一貫目」(新)、「駅売りのお茶」(続)、「ポマード」(続)など、時代を感じさせられるものもあります。

ここから値段表だけを抜き出した『値段史年表 明治・大正・昭和』(1988)、『戦後値段史年表』(1995)もあります。

『物価の文化史事典：明治/大正/昭和/平成』

森永卓郎監修 展望社 2008年

明治から平成にかけての各品目の値段推移の表と物価のうつりかわりの解説があります。

サブタイトルにあるように明治から平成までの値段のうつりかわりがわかります。『値段の明治・大正・昭和風俗史』とあわせて活用できます。

『全国物価統計調査報告』

総務庁統計局 1969年～

調べたい年の物価がわかります。5年に1度発行しており、平成14年度まで過去の年度の報告書もあります。こちらの本は借りることができます。

全国物価統計調査は平成19年(2007)を最後とし、平成25年(2013)から『小売物価統計調査』に統合されています(総務省統計局 HP より)。こちらは、当館では令和元年度まで所蔵しており、最新情報は総務省統計局のHPでご覧いただけます。

『値段の明治・大正・昭和風俗史』で調べてみました！

問① 最近、ランドセルはおしゃれになって値段も高いけれど、自分が使っていた頃のランドセルの値段はどのくらいの値段だったの？

答 東京で中級品1個当たりの小売標準価格は、昭和30年(1955)が2,500円、昭和40年(1965)が3,600円、昭和50年(1975)が10,000円となっています。

大正3年(1914)～昭和56年(1981)の値段のうつりかわりがわかります(『値段の明治・大正・昭和風俗史』続続)。また、『値段史年表』には、昭和62年(1987)まで掲載されています。

問② 昔のコーヒー1杯の値段は？

答 東京の喫茶店で飲むコーヒー1杯の平均値段は、昭和30年(1955)が50円、昭和50年(1975)が230～250円となっています。

明治19年(1886)から昭和54年(1979)までの値段のうつりかわりがわかります。『値段史年表』には、昭和62年(1987)まで掲載されています。

調べてみよう！

- * 昔、バナナは病気の時しか食べられなかったというけれど、他のものと比べてどれくらい高かったの？
- * 今の定期預金の利率はとても低いけれど、昭和の頃ってどうだったの？
- * 大学の先生に「君たちはコーヒー1杯のお金は惜しまないのに、文庫本1冊買うお金は惜しむ」と言われました。岩波文庫1冊は昔、コーヒー1杯の値段と比べてどうだったの？

まずは、紹介されている参考図書を調べてみましょう！

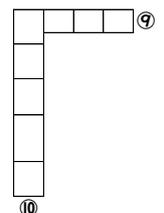
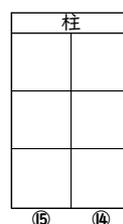
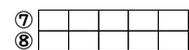
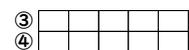
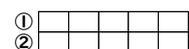
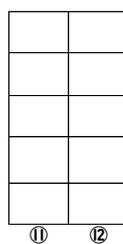
上記の参考図書はこちら→

図書館の本は、本の背に内容がわかるよう分類ラベルが貼ってあります。

物価のことは【3378】を探してみてください。



中央図書館3階



カウンター

わからないことがあれば、何でもお気軽に図書館員におたずねください。